

社会福祉法人ぶどうの木

2024年度事業計画書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

I 事業方針

新型コロナウイルス感染症は、2023年に5類感染症に移行しました。政府として一律に日常における基本的感染対策を求めることはなく、新型コロナ陽性者及び濃厚接触者の外出自粛もなくなりました。感染症対策が各施設の判断となりましたが、ロゴス点字図書館は引き続き手洗いや換気等、対策に努めます。視覚障害者へのサービスやボランティアの活動においては、改善を繰り返し、従来の業務に戻しつつ、コロナ禍で導入した合理的な方法も取り入れ、より柔軟なサービス、ボランティア活動への対応をします。

2023年度はカトリック点字図書館から数えて創立70周年を迎え、ささやかながら記念式典も無事開催いたしました。改めて多くの支援者、利用者、関係者に支えられて歩んできたことを実感し、感慨深いものがありました。利用者のニーズは時代とともに刻々と変化し、サービスもその時々合った対応をしてきましたが、ロゴスの理念「考える図書館」を基本とするサービスは現在も変わることなく続けています。

今年度もさらなる充実を求めて、皆さまから信頼される図書館を目指していきます。昨年度の事業を引き続き継続、発展させ、また新しい取り組みも模索しながら、以下の重点施策を定め、事業計画を作成しました。

II 重点施策

1 電子書籍（テキストデータ・テキストデイジー）製作の充実

2022年度にテキストデイジー研修会を開催し、図書館のテキストデータ化とテキストデイジー製作を進めてきたことにより、ボランティア活動として、軌道に乗りつつあります。

テキストとは、文字コードだけで構成されたデータで、音声読み上げソフトを用いればパソコン等で読み上げることができ、視覚障害者等の大切な情報源となっています。

テキストデイジーとは、書籍のテキストデータを録音図書と同様にデイジー形式で編集したものです。利用するためには対応した専用の再生機器もしくはスマートフォンアプリが必要になります。視覚障害者情報総合ネットワークのサピエ図書館でも、テキストデイジーのコンテンツは増加し、利用者も合成音声に抵抗なく読書を楽しんでいる方が多くなりました。

今年度は、ボランティア、職員とも、より技術を身につけ、全国の利用者に提供できるよう、サピエ図書館のテキストデイジーコンテンツ審査に挑戦し、合格を目指します。この審査が通れば、サピエ図書館へのテキストデイジーコンテンツのアップロードが可能になり、全国の利用者の読書の幅が広がります。

また、国立国会図書館障害者用資料検索サービスが「みなサーチ」という名称でリニューアルされました。このサービスで、国立国会図書館のデジタル資料から全文検索用に作

成したテキストデータ、約247万点をダウンロードして利用することができます。これまでに1960年代までに出版された図書と、2000年までに出版された雑誌がテキストデータ化され、今後は1970年代以降の図書なども順次テキスト化されるとのことで、これらのテキストデータは未校正なので、今後のサービスとして、「みなサーチ」のデータを修正して利用者へ提供することが考えられます。今年度は、職員が「みなサーチ」の研修を受け、理解を深めて図書館としてどのようなサービスが可能か、検討してまいります。

2 「ロゴスのほん箱」「通信あけのほし」テープ版のデジタル化

利用者への図書館だより「ロゴスのほん箱」、支援者へのニュースレター「通信あけのほし」に、デジタル化が普及する前のテープ音源しかないことがわかりました。これらも図書館にとっては大切な財産です。テープのままだと、劣化し、音源が消滅してしまうおそれがあります。今年度中に「ロゴスのほん箱」56号分、「通信あけのほし」84号分のテープ音源をボランティアの協力を得てデジタル化し、大切に保存していきます。

このような定期刊行物においては、バックナンバーの貸出の依頼は少ないですが、貸出の多い資料のみ保存していても図書館の機能を果たしているとは言えません。図書館で文化遺産を集積することも与えられた使命の一つです。70年の歴史のあるロゴスの「文化」を残していくことも重要な業務と考え、デジタル化し、音源を大切に保管していきます。

3 地域の類縁機関との協力体制の充実

ロゴス点字図書館と同じ地域に公共図書館をはじめ、博物館等さまざまな文化施設があります。サービスの多様化を求められる現代において、各施設で視覚障害者を対象に見学やイベント等を開催する機会も増えつつあります。そのような場合は、視覚障害についての知識を持っているロゴスが積極的に協力することで、より充実した催し物となると考えます。具体的には、施設職員に視覚障害者への配慮についての講習を行ったり、開催の広報、PR先の紹介、当日のスタッフ協力や、開催後の検証などに関わっていくことができます。当事者団体とも協力して、情報収集するとともに、各施設へアプローチすることで、視覚障害のある方々の生活が、より豊かになるよう考えていきます。

また、他施設と連携することで、地域の活性化に寄与し、職員の視野を広げることができます。そして交流によって生み出される新たな体制づくりに展開できるように努力してまいります。

Ⅲ 事業計画

1 図書館サービス

ロゴスでは、担当の図書館職員が貸出・レファレンスサービスをするのではなく、職員全員で対応しております。これは、利用者のニーズを把握する上では大きなメリットになります。その利用者の声は、業務にも反映させることができ、特に勤続年数の浅い職員には、理解を深める良い機会となります。利用者のレファレンスに対して、職員同士フォローし合い、利用者が希望する図書を提供できるようにしていきます。特に入職して間もない職員には、今後も検索スキルを磨くことや、利用者の声に耳を傾ける「聞く技術」を習得できるよう、職員が協力しあって利用者へのサービスを充実させます。利用者の希望する資料を、サピエ図書館、国立国会図書館等の情報を駆使し、相互貸借を積極的に行い、

提供していきます。また、当館の図書を「サピエ図書館」に提供し、全国で利用いただけるよう促します。

ご希望のあった図書でまだ製作のないものについてはリクエストまたはプライベートサービスとして受け、対応していきます。リクエストはロゴスの蔵書方針に合った図書を製作していきますが、そうでない図書は、他館と連絡を取り合い、連携し、役割分担できるように協力体制を作ります。利用者が「読みたい」図書を提供するという基本に則り、丁寧なサービスを心がけていきます。プライベートサービスでは、図書以外の小冊子やホームページの情報、個人的な資料などに対応します。また対面朗読サービスについてはホームページやリーフレットでの案内を通し、引き続き利用を促します。

2 図書製作

利用者からリクエストがあり、どの図書館でも製作されていない図書については、当館の蔵書の方針に合っているかどうか判断して製作をしていきます。また、まだ製作されていないもので、蔵書として必要と思われる図書も積極的に製作していきます。

新規図書の製作数は、点字図書25タイトル、録音図書（デイジー）25タイトルを目標とします。

また、テキスト化を進め、利用者がテキストデータを希望した場合、提供できるように整備していきます。テキストデータがテキストデイジー製作、点字図書製作にも有効に使えるように整えていきます。

3 ボランティア養成

点訳ボランティアについては、自動点訳ソフトを使用した点訳を進めていきます。自動点訳ソフトを使用する際のコツなどを情報収集し、ボランティアがそれを習得できるようにし、点訳の効率・スピードを上げられるようにします。また、今年度も月に1回、点訳・校正勉強会の実施をし、活動の悩みや情報をボランティア同士で共有することによる意識の向上、点訳・校正のスキルアップなどを目指します。

音訳ボランティアについては、今年度も例年どおり音訳勉強会と音訳校正勉強会をそれぞれ月1回（8月は除く）開催します。音訳勉強会においては、外部講師による勉強会を5回とし、読みについてのスキルアップを中心に行い、音訳者の資質向上を目指します。

点訳・音訳両方のボランティアに対して行う点訳・音訳合同勉強会については、引き続き開催する予定で、今年度で3回目となります。同じ目的で活動しているボランティアのモチベーションアップや、さらなる活動につなげます。

ボランティアの高齢化や活動者の減少の問題については、引き続きボランティアからの紹介や、すでに活動中の方への声かけをするなどをして、活動者の増員を図ります。

テキストデイジーのボランティアについては、おもにデイジー編集や音訳ボランティアの方々に活動していただき、定着しつつあります。今後は情報交換や勉強会なども検討しながら、必要に応じて活動の充実を図ります。

4 地域貢献（点字教室、ICTサポート）

地域貢献として、引き続き見えない・見えにくい方のための点字教室を実施します。直接来館していただける方を対象に、自身も中途失明当事者である方を講師に、受講生のレ

ベルやニーズに合わせて月2回、1コマ60分の単位で個別に開講します。教室のPRも積極的に行います。

ICTサポートについては、ニーズが高いことから相談業務の中でも引き続き積極的に行っていきます。情報格差が課題となっている現在、小規模施設であることを活かし、日々の電話での問い合わせや来館された際に利用者の希望を把握し、個々に合わせた対応に努めます。また、日本盲人社会福祉協議会主催の情報化対応支援者講習会に参加し、複数の職員が対応できる体制作りをしていきます。国立国会図書館の新しい資料検索サービス「みなサーチ」についても、利用者個人が国会図書館へ登録、検索、ダウンロード等を利用できるよう支援します。そのほか、生活での困りごと、障害による悩みなど、ご本人または家族からの相談に対応します。また、相談から図書館への利用につなげることにより、新規利用登録者の確保に努めます。

5 行事

今年度は2021年度以来開催をしていなかった「ロゴスの文化教室」を予定しております。充実した講演会になるよう、企画してまいります。

2019年度を最後に中止しておりました「チャリティ映画会」については、一般の映画館でも音声ガイドが用意されるようになり、また映画の主音声に音声ガイドを収め、デジ編集した「シネマ・デージー」が普及して楽しめるようになったことから、終了としました。今まで映画会に支援、参加してくださった方々に感謝いたします。

6 定期刊行物・出版

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月（偶数月）、「ロゴスのほん箱」でご紹介した蔵書を1年分まとめた「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」を年1回発行します。また有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」点字版に加え、新たにデジ版を毎月発行します。点字版とともにデジ版を知っていただくため、PRと広報に努めます。

「ロゴスのほん箱」「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」は、全国の視覚障害者等の皆さんが当館を知っていただく機会にもなることから、引き続きサピエ図書館へ点字版・デジ版のコンテンツ登録をします。

点字出版については、内容等の見直しを行い、蔵書への移行が決定した図書は、点字のデータ化と、サピエ図書館へのコンテンツアップをしていきます。

7 チャリティグッズを通した普及啓発の促進

昨年度の70周年記念式典にご出席された方に、ノベルティのバッグとクリアファイルをお渡ししましたが、好評だったため、今までのチャリティグッズと同様にご紹介していきます。それによってロゴスの認知度向上、普及啓発に努めます。

8 法人業務・会議体

2024年度は理事会3回、評議員会1回の開催を予定しています。